

# 第2回 リスナー参加型 天下一学問会

高校レベル

解答解説

倫理

作問者：Unferth

問題数：大問4問

記述式

解答時間：60分

## 出題意図

前回に続き義務教育の倫理の穴を埋めるものとして作成した。

義務教育、すなわち教科書の倫理の弱点は哲学や宗教を「先哲」として考え、ひたすら考えを記憶させる点にある。

かつての思想家たちはみな自分の前の思想に挑戦し、批判し「そうではないのではないか」という問いを発した。これこそ倫理において本来求められる立ち位置である(こうした考えは藤原聖子『教科書の中の宗教——この奇妙な実態』による)。

問1-3、問5-8は比較的素直な問題である。

他方、上記出題意図に基づき問4と問9では「正解のない問題」を出題した。

問題そのものは書式を守れば回答できるが、正答誤答とは関係なくあなたが考えたあなたの答えを大事にしてほしい。

また問9はバーバラ・H・ローゼンワイン『怒りの人類史 ブッダからツイッターまで』を踏まえて出題した。

問1 仏教の代表的な苦しみとされる四苦の内容を答えなさい  
生老病死、生きること老いること病気になること死ぬこと

問2 下線部(2)の哲学者の名前を一人あげなさい  
セネカ、キケロ、マルクス・アウレリウス等

問3 下線部(3)の宗教の開祖とされる人物の名前を答えなさい  
イエス、イエス・キリスト、ナザレのイエス等

問4 下線部(4)の文中の昭侯の行動についてあなた自身の考えで評価しなさい。

出題の通り昭侯の行動を評価していれば正答とする。  
以下、解答例

「昭侯の行動はいかにも杓子定規です。問題は昭侯が酔っ払って寝たことであり、部下に罰を与えるのはやりすぎです。なので、私は昭侯の行動が嫌いです。評価しません」

「昭侯の行動は一見やり過ぎですが、あえてそれぞれの役職を用意したことを考えれば理解できます。現代でも医療の分野でも医師と看護師のしていることは分けられています。衣をかけるという行動も一見誰でもできそうで、その判断に専門的知識が必要だとするなら、昭侯の行動は妥当です。そのため、私は昭侯の行動を評価します。良いことだと思います」

問5 諸子百家の一つであり、法を重んじて信賞必罰を問いた思想の名前を答えなさい。  
法家

問6 諸子百家の一つであり、仁と礼を重視する思想の名前を答えなさい。  
儒教/儒家。孔子、孟子などの個人名は部分点とする。

問7 「我思う故に我あり」という命題に到達し、『方法序説』を書いた哲学者の名前を答えなさい。  
デカルト、大デカルト、ルネ・デカルト

問8 人間の行動には無意識の欲望(リビドー)があると考え、『精神分析入門』を書いた精神分析学の創始者の名前を答えなさい。  
フロイト、ジークムント・フロイト

問9 以上の文章を念頭に、以下の書式を守りながらあなたの考えを述べなさい。

出題の通りいずれかの書式を使用し、評価を下していた場合正答とする。

以下、解答例

1. 怒りは常に悪いことであり、正さなければいけない。自室であろうと、戦争の悲惨さについてであろうと、怒ってはいけない。なぜなら……  
仏教、ストア派、キリスト教のいずれも怒りを悪としている。これほど多くの思想で悪とされるということは怒りになんらかの悪影響があると考えるのが妥当であり、怒りは悪である。
2. 怒りが悪いかは時と場合による。ある場所では怒っていいし、別の場所では怒ってはいけない。ある問題について怒るのは間違っているが、別の問題では怒って良い。なぜなら……  
怒りが悪か善かは時代と環境によって異なるためである。たとえばストア派が怒りを批判したのは、ローマの支配層として怒りを表に出すのが好ましくないということを言っているだけかもしれない。現代においてもこの問題の正解は出ていない。更に、時と場合はさらに複雑だ。日本では家庭で怒っていいかもしれないが、合衆国では違うかもしれない。東日本と西日本でも、沖縄と北海道でも違うかもしれない。つまり、私達は怒りを制御するよりは「怒りを見る視線」に迎合すべきであり、怒り自体の善悪は判断できない。
3. 怒りは常に良いことである。怒ってならない時や場所なんてないし、何に怒るかも問題ではない。常に正しい。なぜなら……  
怒りは社会を動かす大きな力だからである。ストア派が怒りを嫌ったのはローマの支配層として変化を嫌ったからである。フランス革命、ロシア革命など、いわゆる革命は民衆の怒りによって起こったと考えられる。怒りを抑圧せず、むしろ怒りを開放することが社会にとって良いことである。それゆえ、怒りは常に良い。